

宮崎県政記者クラブ
記者クラブ(延岡市)同時発表

平成 28 年 10 月 18 日
国土交通省 延岡河川国道事務所
宮 崎 県 延 岡 土 木 事 務 所

平成 28 年台風 16 号における北川河川改修事業の効果について

五ヶ瀬川水系北川では、平成 9 年台風 19 号による大規模な浸水被害により、国土交通省及び宮崎県にて河川激甚災害対策特別緊急事業（通称：激特事業）の採択を受け、約 210 億円の事業費（国交省 119 億円、宮崎県 91 億円）をもって、河道掘削、築堤、水門の設置等を実施しました。

その後、平成 17 年台風 14 号による大規模な浸水により、二度目の激特事業に採択され、約 210 億円（国交省 200 億円、宮崎県 10 億円）をもって、北川においては、追内川及び川島排水ポンプ場を新設しました。

また、宮崎県においては、平成 16 年度より土地利用一体型水防災事業（通称：水防災事業）により、家屋の嵩上げが実施されており、現在までに全 200 戸のうち、132 戸が完成しております。

北川では、今回の台風 16 号洪水は、近年の大きな洪水と同等程度でしたが、浸水家屋数の減少など、河川改修による効果を確認しましたので、公表します。

【事業効果】

■国土交通省管理区間

2 度の激特事業とその後の隔流堤設置及び河口部拡幅等の水位低減対策により、北川沿川の川島・東海地区では、12 時間雨量が平成 17 年洪水と比べ 1.4 倍の雨量であったにもかかわらず、**平成 17 年洪水で 100 戸あった家屋浸水が解消。【家屋浸水：100 戸→0 戸】**

■宮崎県管理区間

過去の激特事業や水防災事業等により、**平成 9 年洪水で 648 戸の家屋等浸水が、今回洪水では 24 戸と大きな効果があった。**

【家屋等浸水：648 戸→24 戸】（約 96% 減）

併せて、地区によっては霞堤方式により、堤防越水や破堤をまぬがれ、また、洪水後の速やかな排水効果が確認できた。

問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 延岡河川国道事務所 電話 0982-31-1155（代表）

副所長 志賀 三智（内線 204）

調査第一課長 小野 富生（内線 351）

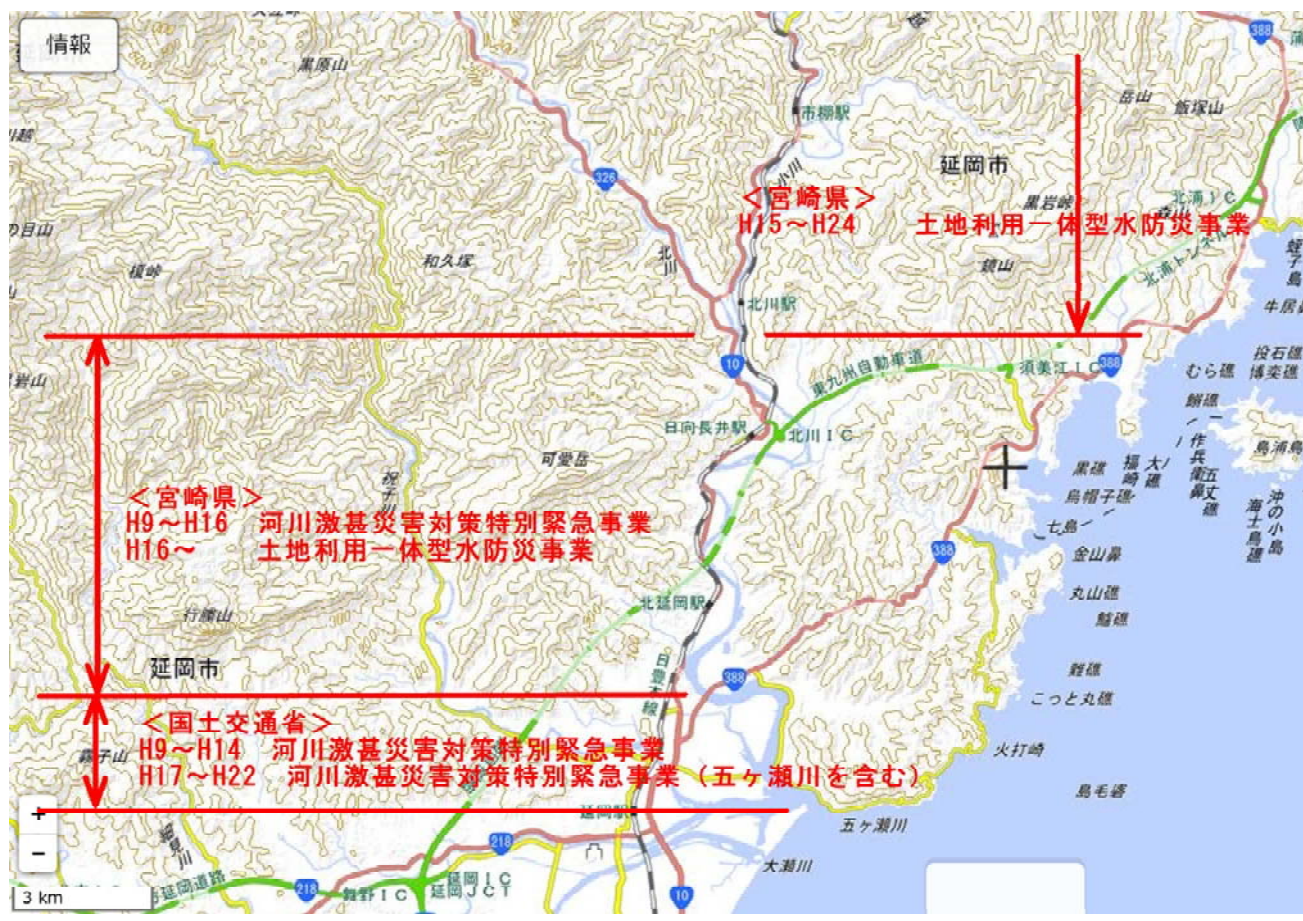
宮崎県 延岡土木事務所

電話 0982-21-6225

河川砂防課長 斉藤 幸男

副主幹 岩元 聡

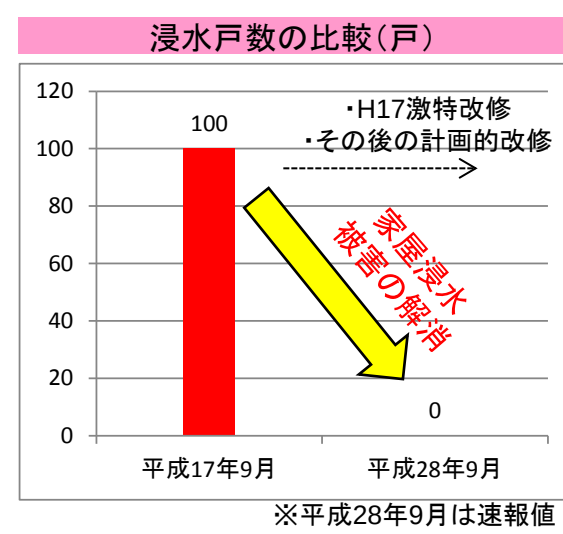
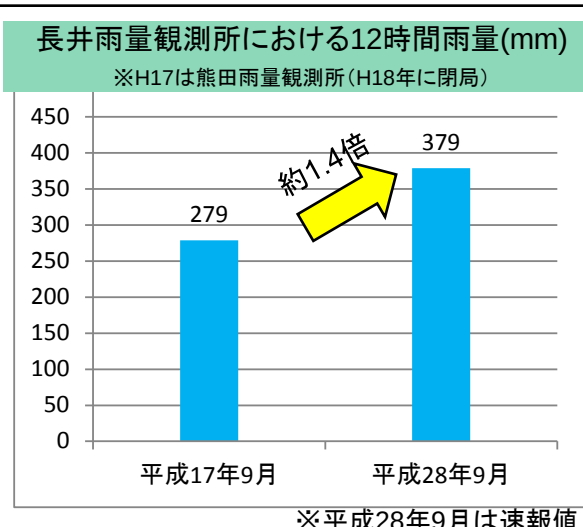
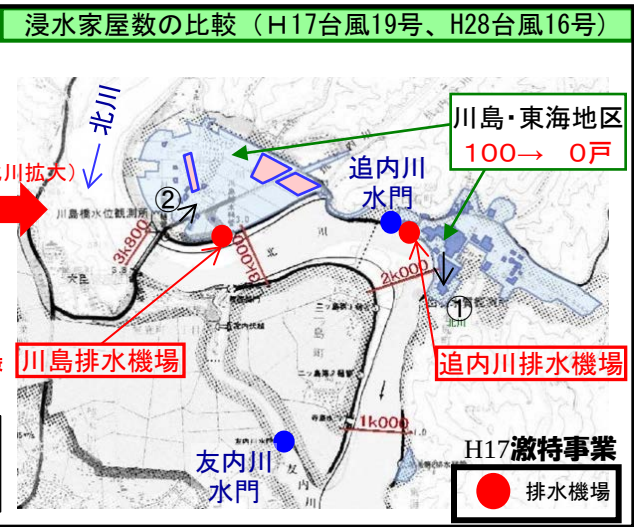
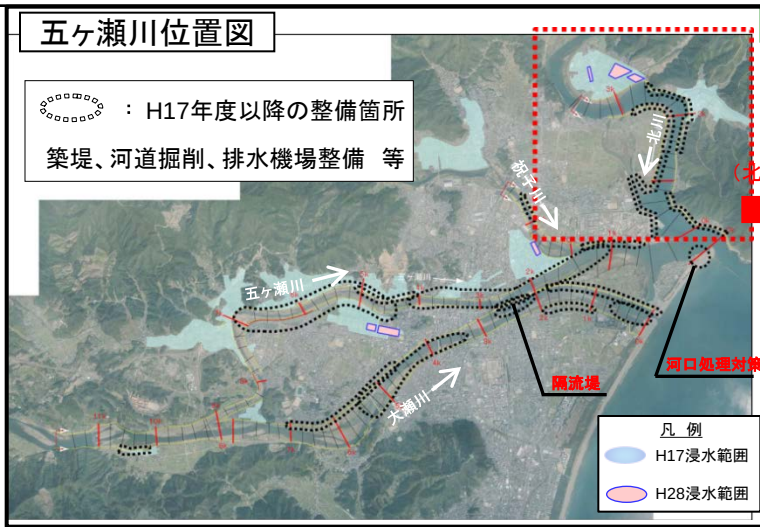
一級河川五ヶ瀬川水系北川 河川改修事業位置図



五ヶ瀬川水系激特事業の効果(直轄区間)

平成28年9月(台風16号)

- 北川において平成28年9月洪水は、川島、東海地区で100戸が浸水した平成17年9月洪水と同規模の洪水であった
- 平成17年の激甚災害対策特別緊急事業での排水機場整備や隔流堤、五ヶ瀬川河口処理対策による本川水位の低下に伴う北川水位の低減効果等により、平成17年洪水と12時間雨量は多かった(約1.4倍)ものの、浸水戸数0戸となり家屋等浸水被害が解消された(100戸→0戸)



五ヶ瀬川水系北川激特、水防災事業の効果(県区間) 平成28年9月(台風16号)

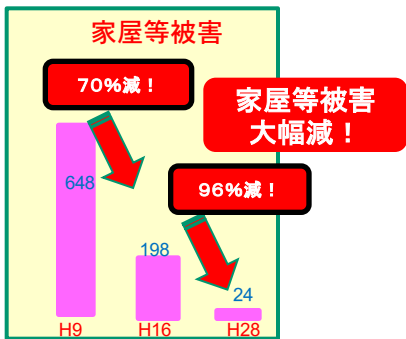
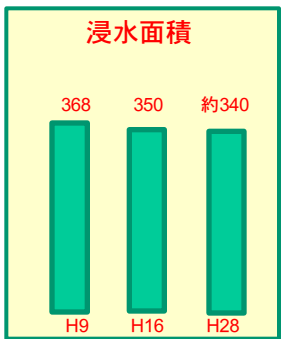
○宮崎県における事業効果

台風16号により浸水被害が発生するも、河道掘削・宅地嵩上などの事業効果により家屋浸水被害が大幅に低減!!

○主な浸水被害の実績表

年月日	要因	流量 (m3/s)	浸水面積 (ha)	家屋等被害 (戸)
H9.9	台風19号	約5,000	368	648
H16.10	台風23号	約4,900	350	198
H28.9	台風16号	約4,300	約340	24

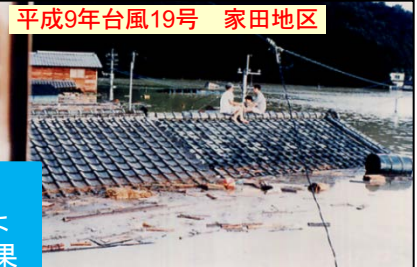
※観測地点は、H9,H16：熊田観測所、H28：長井観測所。



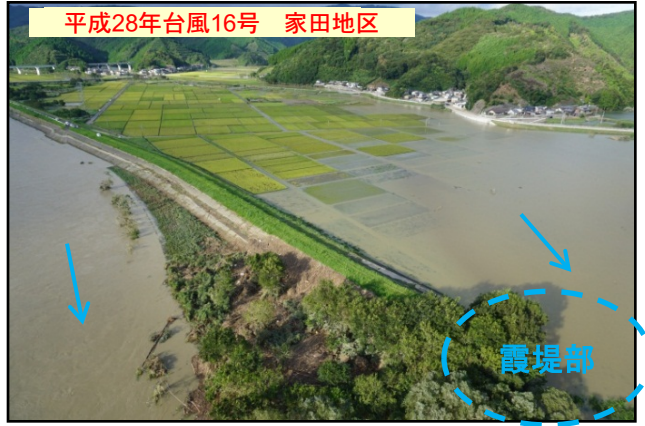
激特事業 (H9～H16) による水位低減効果

水防災事業 (H16～) による宅地嵩上効果

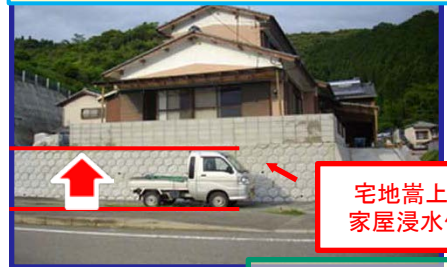
● 整備前



● 整備後



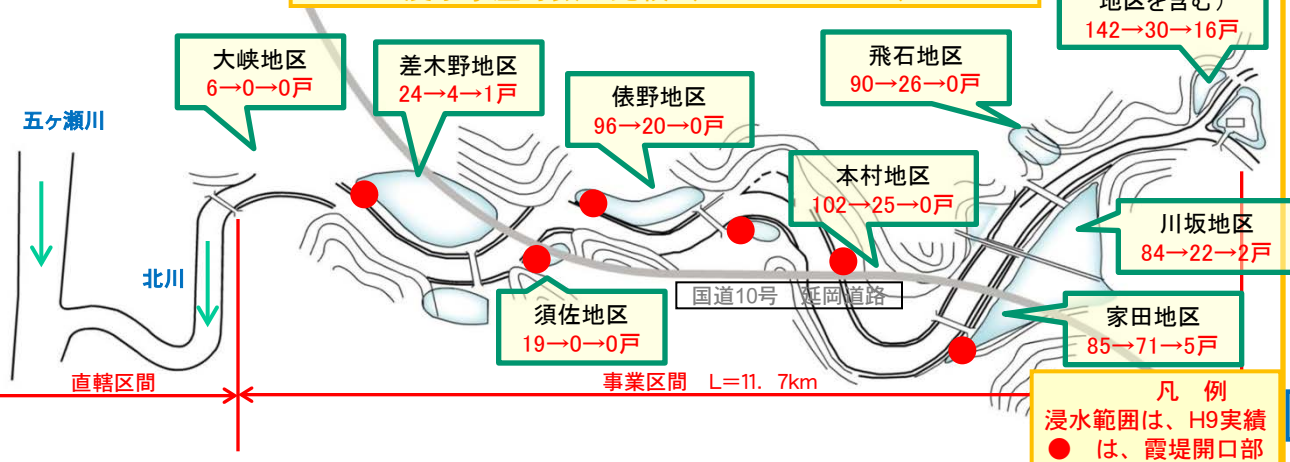
土地利用一体型水防災事業の内容



宅地嵩上げにより家屋浸水低減効果

霞堤からの流水により浸水しているが宅地嵩上げにより家屋浸水は大幅に低減!
宅地嵩上げた家屋は浸水ゼロ!!
霞堤からの流入による浸水は1日で解消!!

浸水家屋等数の比較 (H9→H16→H28)



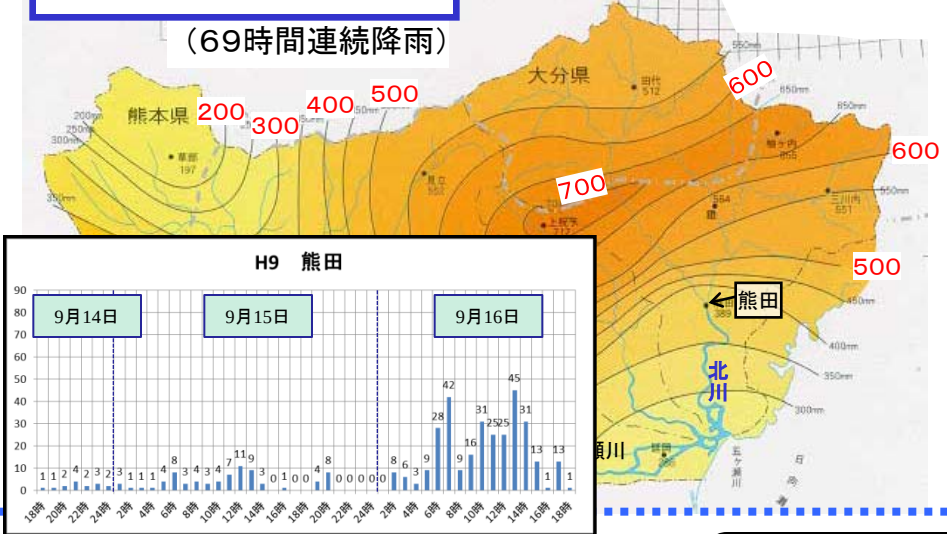
平成28年度の数値は速報値のため、今後の調査で修正となることがあります。

五ヶ瀬川水系激特事業の効果

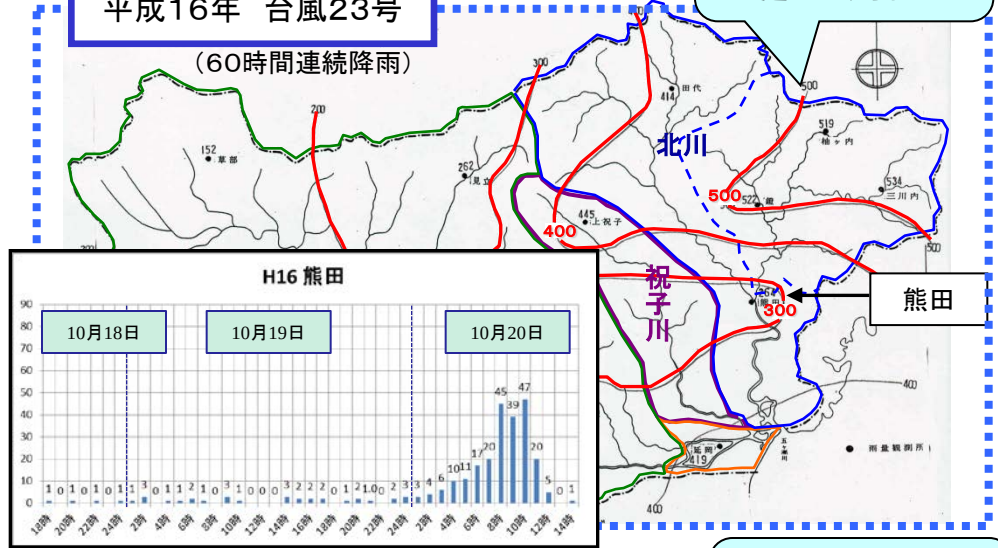
【参考資料】

平成9年の台風19号では、連続雨量700mmを超える豪雨となり、北川流域で甚大な被害が発生し激特事業が実施がされた。激特事業完成後においても、北川流域において平成16年台風23号(連続雨量500mm)、平成17年台風14号(連続雨量900mm)など大きな降雨が観測され、今回の台風16号においては連続雨量400mmが観測されている。

平成9年 台風19号
(69時間連続降雨)

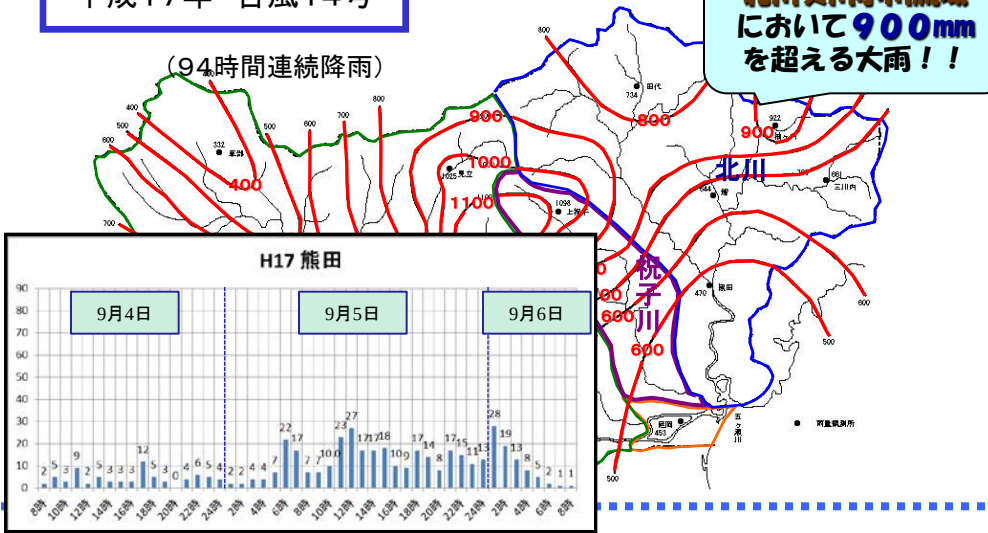


平成16年 台風23号
(60時間連続降雨)



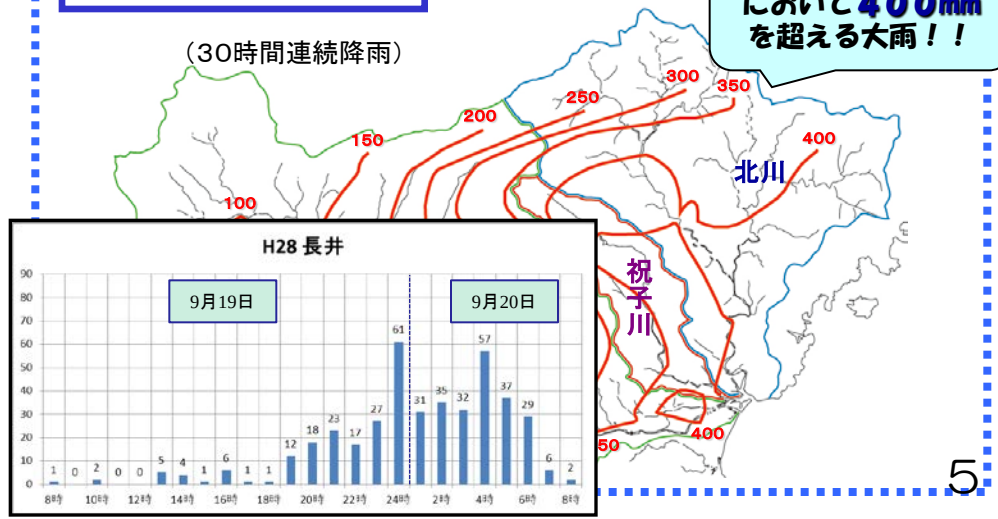
北川支流小川流域において**500mm**を超える大雨！！

平成17年 台風14号
(94時間連続降雨)



北川支流小川流域において**900mm**を超える大雨！！

平成28年 台風16号
(30時間連続降雨)

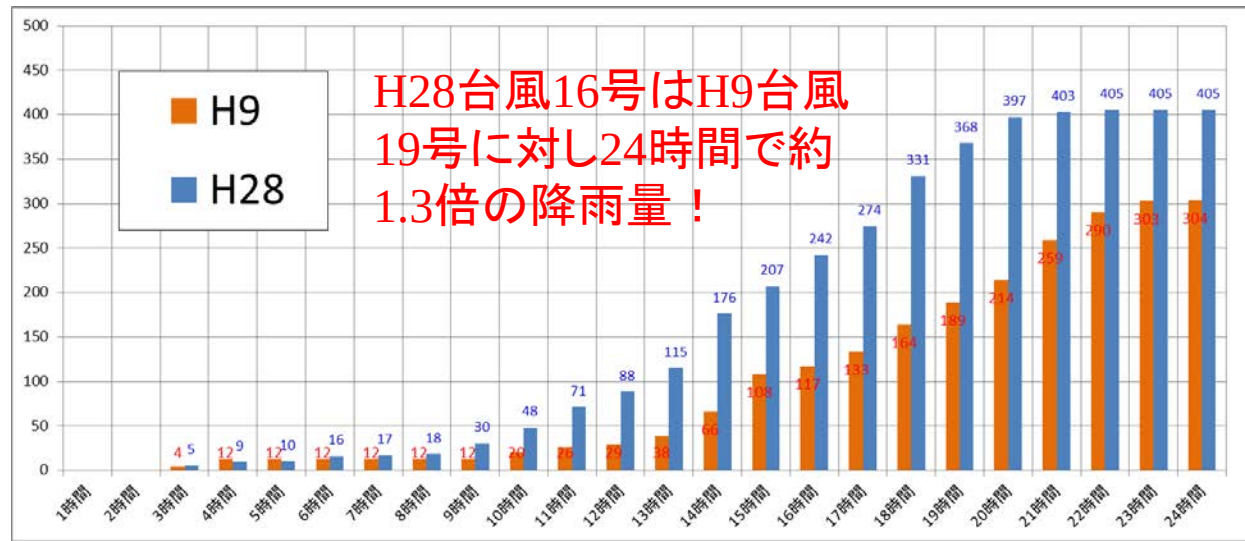


北川流域において**400mm**を超える大雨！！

五ヶ瀬川水系激特事業の効果

【参考資料】

観測史上最大の流量を記録した平成9年の台風19号では900ミリを越え、累加雨量は最大であったが、24時間降雨で304ミリに対して、今回降雨は24時間に400ミリを超える豪雨となった。（※熊田雨量観測所は、H18年に閉局。現在は長井雨量観測所で観測。）



※平成9年は熊田雨量観測所、平成28年は長井雨量観測所で観測。

